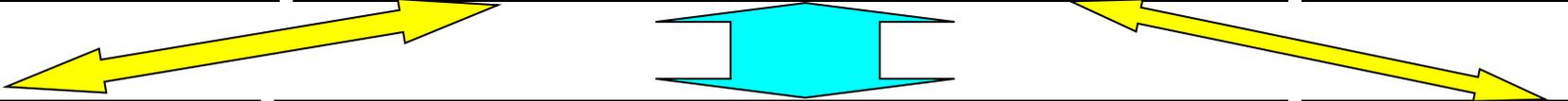


令和2年度 学力向上アクションプラン

尼崎市立潮小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題 <p>○全国学力学習状況調査の結果から見られる課題 (1)学力調査 ・国語 各領域で全国平均を全て上回っているが、「書く」領域がやや弱い。指定された段落の要点を踏まえて書けているが、報告文にふさわしい表現を満たしていない児童の割合が多い。指定された書き出しに対して、「—からです。」と敬体で締めくくることが不十分である。漢字の書き取りの問題で、全国平均を下回っている。 ・算数 各領域で全国平均を全て上回っているが、「数量・図形」の領域がやや弱い。</p> <p>(2)質問紙調査 ・自己肯定感、みんなで協力する力、他者へ向ける意識、などに課題がある。</p> <p>○保護者アンケートから見られる課題 ・基本的な生活習慣、読書習慣や家庭学習への取組について、学年が上がるにつれ、家庭と学校との連携が薄れていく傾向が見られる。</p>	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着, 活用力の育成)			本年度の具体的な目標 <p>○あまっ子ステップアップ調査において、昨年度以上</p> <p>○児童アンケート ・「2学期のある期間の9日間のうち、自主学習に何日取り組めたか」(R2年度目標値:90%)</p> <p>○保護者アンケート ・「家庭において、家庭学習や読書週間が身につくようにしている」(R2年度目標値:3ポイント(4件法による))</p>
	授業力向上への取組 <p>○校内研究において、全体研究会を4回、ブロック研究会を4回実施するとともに、一人一授業を行い授業力向上を図る。</p> <p>○研究会・研修会においては、外部講師を招聘し指導助言を仰ぎ、その後の実践に活かす。</p> <p>○全教職員の共通理解を図り、全ての学年、全ての教科において「潮スタイル授業」を基本として授業を行う。</p> <p>○アクティブラーニングや課題解決学習を取り入れた実践の先進校視察を行い、その学びを自校の教育活動に反映させる。</p>	学習習慣定着に向けた取組 <p>○授業補助員とのチーム・ティーチングにより、児童の理解を促し、学習活動への参加意欲を高める。</p> <p>○全児童及び各家庭に「自主学習のてびき」を配布し、自主学習を含む家庭学習への取組の充実を図る。</p> <p>○放課後学習を実施し、必要な児童の学力をサポートする。</p> <p>○生活リズムの確認を実施し、基本的な生活習慣の確立を図ることにより、児童の学習活動等の活性化を促す。</p> <p>○6月と12月に生活リズムの集計を行い、その結果を家庭へ情報提供することにより、家庭と学校との連携を深め、宿題・自主学習の定着を図る。</p>	その他の取組 <p>○自分の考えを表現したり他者と意見交流したりする場と時間を確保し、児童の思考力・表現力を育成する。</p> <p>○全学年共通の取組として朝学習の時間を利用して読書の時間を確保したり、地域ボランティアによる読み聞かせを行ったりして、本に親しむ子の育成を図る。</p> <p>○読書力向上支援員と連携し、市の図書館を利用するなどして、図書を教科指導等に有効に活用する。</p> <p>○スタディプランを作成し、全児童及び各家庭に配布することにより、学習習慣の定着を図る。</p> <p>○学力調査の結果分析を行い、児童一人ひとりのつまずきや学級・学年の実態把握に努め、授業改善につなげる。</p> <p>○学校だより等で、学力調査や保護者アンケート等の結果を公表し、家庭教育についての啓発と家庭との連携を図る。</p>	



校種間連携 <p>○幼保小連携担当を中心に、研修等に参加し学んだことを全教職員に周知を図るなどして、発達段階に応じたきめ細かな指導の工夫を行う。</p> <p>○中学校区で緩やかな小中接続のために必要な方策を研究する。</p> <p>○中学校区において、小小連携・小中連携を深めるとともに、キャリア教育の充実を図る。</p>	支援内容		家庭・地域との連携 <p>○学校だより等により、学力調査や保護者アンケート等の結果を公表し、保護者の家庭教育に対する意識の向上を図る。</p> <p>○各家庭に「自主学習のてびき」を配布し、家庭との共通理解により自主学習の取り組みを強化する。</p> <p>○各家庭で生活リズム運動を児童とともにに行ってもらい、基本的な生活習慣の確立を図る。また、その結果を公表し、家庭での取組の強化を図る。</p>
	支援内容 <p>(1)授業改善推進支援</p> <p>(2)通級指導による支援</p> <p>(3)学力定着支援</p> <p>(4)地域人材活用支援</p> <p>(5)その他</p>	具体的内容 <p>○自ら学び、考える力をつける学習指導の工夫 元 京都女子大学教授 吉永幸司氏 2回 桃山学院教育大学教授 今宮信吾氏 1回</p> <p>○通級指導による支援</p> <p>○放課後学習 水曜日</p> <p>○地域ボランティアによる読み聞かせ(25人)</p> <p>○「スタディプラン」や「自主学習のてびき」の作成と配布 ○ワークシートや学習プリントの作成と活用 ○「あまっ子ステップアップ調査」の結果を基に、個々の児童を支援</p>	